

令和元年 7 月 1 7 日

令和元年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原情報デザインアート専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原デザインアート専門学校、学校関係者評価委員会は、平成 3 0 年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

令和元年 7 月 1 7 日

2. 学校関係者評価委員

長谷川 徹 氏 (株式会社 オーティエス 取締役営業本部長)

山本 利彦 氏 (株式会社 ディープラス 代表取締役)

八尾 一廣 氏 (株式会社 MC企画 管理部開発課主任)

西端 一晃 氏 (株式会社 プロモ 副部長)

(事務局)

田中 克実 (大原学園大原情報デザインアート専門学校 校長)

宮路 信美 (大原学園大原情報デザインアート専門学校 副校長)

藤川 宏明 (大原学園大原情報デザインアート専門学校 外語・IT・スポーツ・医療教務部部長)

山本 剛 (大原学園大原簿記法律専門学校難波校 法律教務部次長)

川上 譲司 (大原学園大原情報デザインアート専門学校外語・IT・スポーツ・医療教務部課長補佐)

川畑 増知 (大原学園大原情報デザインアート専門学校外語・IT・スポーツ・医療教務部課長補佐)

一角 健 (大原学園大原簿記法律専門学校難波校 法律教務部課長補佐)

平成 31 年度自己点検・評価の概要

(事務局)

大原情報デザインアート専門学校の 2018 年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。学校運営は意思決定システムの下、円滑に行われている。また、教育理念に従って運営方針を定め、事業計画に基づき人材育成が行えている。また、学校運営に関わる予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。昨年度は、IT系の資格実績は、おおよその試験で専門学校生合格率の 2 倍以上の結果を維持しており、85%超の学生が国家資格に合格している。高度試験の合格者は輩出できておらず、カリキュラムの再編成に向けて現在、委員の方にご助言を賜りながら改定を進めている。

クリエイター系分野においては高い内定実績を維持しており、マンガ・イラスト分野においては各種コンテスト、イベントの参画、産学協同での制作を通じて発表の場を多数設け、デビューや実績を挙げて目標達成に貢献している。声優分野においては、学内行事での各種アナウンス等の経験を設け、進路として声優系事務所入所の目標達成に貢献している。

令和元年度 重点目標 1

作品及び技術等の発表における成果を把握

<現状・達成指標>

社会のニーズや市場の変化に伴いトレンドが目まぐるしく移り変わり新技術も次々と発表されている。教員は常に最新の情報にアンテナを張り、高い指導力、講義力をもって合格実績の更なる向上に繋げなければならない。実践的な教育として制作物の評価をもらいレベルアップを図る。

また、コンテスト等にも積極的に参画し実績を挙げ、成果物の質向上に努めたい。

<具体的方策>

① 企業連携の強化

企業等と連携し最新の技術や市場動向などの変化により生じる問題点や課題を把握し、必要なスキルを理解のうえ指導にあたる。実践的授業や講演などの実施および成果物の評価を受ける場を積極的に設ける。

② 外部コンテスト、イベント

コンテストやイベントにも積極的に参画し外部評価からニーズやトレンドを理解する。

<学校関係者評価委員からの提言>

昨年の委員会にて、基礎となる知識や技術の習得は継続しながら、学生・職員共にトレンド技術に触れる機会を設けると良い、とのご意見を頂戴し双方にて実現に向けて調整を重ねてきた。本委員会にて委員から結果報告があり来春に当校学生を対象にしたセミナーを実施いただくこととなった。また、コンテストへの積極的参加のご助言を通して、参加を増やした。参加を通して評価を頂き最近のトレンドやニーズを理解に務める事もできたので、今後も積極的に外部評価が得られる講評会やコンテストへの参画を継続的に行う。

令和元年度 重点目標 2

学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献

<現状・達成指標>

コースの特性を生かし大阪市や役所主導の地域イベントに参画し貢献して講評を得ている。今後も地域の活性化に役立てていけるように地域と連携していく。

＜具体的方策＞

大阪市や区役所等の依頼に対して積極的に参画する。

地域と共に継続して地域活動、ボランティア活動を通して地域の発展等に貢献し学生の社会性の向上を図る。

＜学校関係者評価委員からの提言＞

地域のイベントでの似顔絵制作で積極的に参加されるなど、地域貢献されていることにつき非常に良いと感じた。難波校のエリアは特に西の秋葉原と言われる日本橋が近隣にあり、当該校の分野で学習する学生たちにとってはあ、最新の情報に触れることの出来る環境下にあることから、是非積極的に自ら情報を得ていくような指導を今後続けていっていただきたい。そうすることで、作品制作やスキルアップに繋がるかと感じるとのご意見をいただきました。

全体評価と総括

（学校関係者評価委員）

情報処理教育においては、安定した資格合格実績や就職内定実績についてご評価をいただいております。また、今年度重点的に取り組む項目として、「作品及び技術等の発表における成果を把握」と「学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献」が挙げられ、マンガ・クリエイター・声優分野においては、地域のイベントへの積極的参画や、各種外部コンテストへの応募、学内イベントでの活躍など、良い取り組みをしている点につき、ご評価をいただきました。今後、学校関係者評価委員としては、難波校のエリアは、コンテンツ産業の西のメッカである日本橋などの近隣であり、立地環境の優位性を是非活用して、スキルアップできるような指導を継続してもらいたいとのアドバイスがありました。現在の実践的指導につき委員としても積極的に進めることにつき同意見であるとともに教育効果に期待する声があった。

（事務局）

大原情報デザインアート専門学校では、情報処理、マンガ、クリエイター・声優などのコンテンツ産業に携わる専門職を育成する分野を有しており、資格取得および実技指導においても一定レベルの教育結果を残すことが出来た。今後も、高い専門性を有して社会で即戦力となる人材育成を担うことに変化はないが、クリエイティブな思考は教えるものではなく、自分たち自身で開発していくものであるため、その成長や向上心・好奇心を醸成するような指導や情報提供を行っていきたい。また、現状に満足することなく、社会から専門学校に求められる知識・技能教育について、常により良い教育が出来るよう、学校関係者評価委員からのアドバイスを受け、常にブラッシュアップを図っていく所存である。